



「のりもののカードを つくろう」(1年生 国語科の学習より)

「校長室だより」22号でお伝えしましたように、本校では、「新しい時代を生きる子どもに必要な資質・能力の育成 ～2030年学習指導要領に向けての基礎研究～」をテーマとして、実践研究に取り組んでいます。

12月12日には、今年度6回目の「授業研究会」を行いました。この日は、1年生国語科「のりもののカードをつくろう」の授業を全教員で参観し、より効果的な指導・支援のあり方について討議しました。また、授業改善に向けて外部講師の先生に助言をいただきました。



1年担当グループが設定している研究テーマは「個別最適な学び」です。これは、子ども一人一人の違いやよさを大切にし、それぞれに合った方法で力を伸ばしていく学びのことです。一人ではばばらに学ぶことなく、自分に合った方法で力を伸ばしながら、友達と学び合う中で成長していくことを目指しています。1年担当グループの「学校生活や学習の基礎を学ぶ過程で、子どもたち一人一人が自分に合った学習方法を選べる力を身につけることで、学び方の幅を広げていきたい。そして、学校生活や学習の積み重ねを、次の学年へと確実につなげていけるようにしていきたい。」という思いから、このテーマを設定しました。

今回の授業では、子どもたちは自分の好きな乗り物を選び、本や図鑑で調べながら「やく目」「つくり」「できること」という3つの観点に分けて整理し、クイズカードにまとめていきました。この学習では、全員が同じ乗り物を調べるのではなく、自分の興味のある乗り物を選びます。前の時間までの学習を振り返りながら、「やく目はどこに書くの?」「『～のため』と書くとわかりやすいね」と、書き方のポイントを確かめた上で、調べ方やまとめ方など自分のペースで進めていきました。

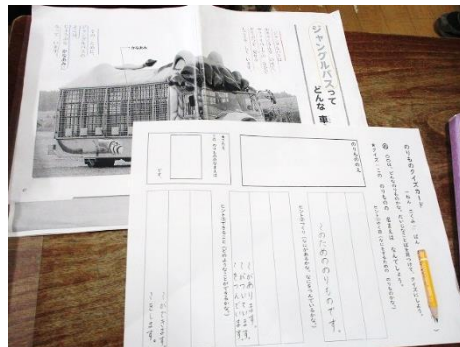


まずは「やく目」から。前時に読み取った資料をもとに、本文をそのまま写すのではなく、クイズにしたい大事なことをだけを選んで短くまとめます。書き終えた子どもたちは、「ミニ先生」となって友だちのところへ。さっそく3人が教室を回り、困っている友だちにやさしく声をかける姿が見られました。続いて「つくり」。たくさんある内容から1つを選び、文にまとめます。「どれを書こうかな」と真剣な表情で考える子どもたち。最後は「できること」。難しい内容にもねばり強く取り組み、気づけば9人がミニ先生として活躍していました。

(※裏面に続く)

(※表面より)

活動の中で、色分けをして大事な言葉を見つけたり、友だちとアドバイスをし合ったりしながら、少しずつ内容を整理していく姿が見られました。「どのヒントから出すとわかりやすいかな」「この言葉を入れたら伝わりやすいかな」と、自分で考えながら文章を整える様子は、とても頼もしいものでした。得意な子は友だちにアドバイスをする“ミニ先生”として活躍し、困っている子も安心して学ぶことができました。



授業の終わりの振り返りでは、『やく目』『つくり』『できること』を書けた。」「じぶんでクイズをつくることをがんばった。」「はじめてじぶんでつくった。」「ほめられてうれしかった。」「ミニ先生からおうえんをもらってうれしかった。」といった声が聞かれました。

自分で考え、ことばを選び、友だちと学び合いながら完成させたクイズカード。子どもたち一人一人のがんばりが詰まっています。クイズ大会本番も、きっと大盛り上がりになることでしょう。

今回の「のりものカードをつくろう」の学習は、単にクイズを作る活動ではありません。国語科で大切にしている「読む力」と「書く力」の基礎を育てる学習です。子どもたちは、本や図鑑から必要な情報を探し、「大事な言葉を選び取る」ことに挑戦しました。これは、文章の中から必要な情報を見つけ、要点をまとめる力を育てる大切な学びです。また、友だちと読み合い、アドバイスをし合う中で、「相手に伝わるように工夫する力」や「学び合う力」も伸ばしています。

さらに、この学習では、全員が同じ乗り物を調べるのではなく、自分の興味のある乗り物を選びました。まとめ方も、ヒント付きのプリントを使う子、自分で構成を考える子など、それぞれが自分に合った方法で取り組みました。書くスピードや理解の深まりにも違いがありますが、教師は一人一人の様子を見取りながら支援を行い、早く仕上がった子は“ミニ先生”として友だちを支える役割を担いました。友だちから「ここがよかったよ」と声をかけられ、うれしそうにする姿も見られました。

さらに、この学習では、全員が同じ乗り物を調べるのではなく、自分の興味のある乗り物を選びました。まとめ方も、ヒント付きのプリントを使う子、自分で構成を考える子など、それぞれが自分に合った方法で取り組みました。書くスピードや理解の深まりにも違いがありますが、教師は一人一人の様子を見取りながら支援を行い、早く仕上がった子は“ミニ先生”として友だちを支える役割を担いました。友だちから「ここがよかったよ」と声をかけられ、うれしそうにする姿も見られました。

クイズ大会はゴールですが、本当の目的は「学び方を学ぶこと」。つまり、「自分に合った方法を選ぶ力」「困ったときに助けを求める力」「友だちを支える力」「そして自分で学びを進めていく力」などです。一人一人が自分に合った方法で学びながら、友だちと支え合う姿は、まさに「個別最適な学び」の姿です。1年生の今だからこそ、学習の基礎とともに「学び方」を身につけることが大切だと考えています。

本校では、これからも、一人一人のよさを生かしながら、自分で考え、選び、学び続ける力を大切に育てていきます。

